

MRI検査事前確認票(紹介元医療機関用)

検査予約日時	20 年 月 日	予約時間	:
ご施設名 (ご紹介元)			
フリガナ		年齢	生年月日
患者氏名		歳	年 月 日
久留米大学病院 または 久留米大学医療センターの受診歴	有 ・ 無 「有」の方のみ (患者ID番号 :)		
住所 (当院受診歴が無い場合は必須)	〒 ()		
電話番号 (日中ご連絡が取れる番号)	- -		

以下の体内金属を保有する場合は、MRI検査を実施できません。

頭部シャント(メドバルブ) ・ 神経刺激発生装置 ・ 人工内耳 ・ 心臓人工弁(生体弁は検査可)
内視鏡止血クリップ(挿入後4週間以上経過していれば検査可) ・ 歯科用磁石式インプラント(土台が磁石タイプの場合)

上記に該当する体内金属が無いことを確認した。

以下の 1) ~ 13) のすべての項目についてご確認をお願いします。

1) 身長 : _____ cm	・	体重 : _____ kg	
2) MRI検査での造影剤使用歴の有無			無 ・ 有
3) 造影剤による副作用歴の有無			無 ・ 有
※副作用歴がある場合は、当院では造影検査を行うことが出来ません。			
4) アレルギーの有無			無 ・ 有
「有」の場合、以下の該当する項目にチェックをしてください。			
<input type="checkbox"/> 薬剤アレルギー (薬剤名 : _____)			
<input type="checkbox"/> 食物アレルギー (食物名 : _____)			
<input type="checkbox"/> その他 (_____)			
5) 気管支喘息の有無			無 ・ 有
「有」の場合、以下の該当する項目にチェックをしてください。			
<input type="checkbox"/> 現在、治療中			
<input type="checkbox"/> 治療が終了して5年以内			
<input type="checkbox"/> 治療が終了して5年以上経過			
※5年以内の治療歴がある場合は、当院では造影検査を行うことが出来ません。			
6) 腎機能 (e-GFR) : _____ ml/min/1.73m ²			(e-GFR 30 ml/min/1.73m ² 以下は造影できません)
※検査予約日から過去3ヶ月以内の結果がなければ当院では造影検査を行うことが出来ません。			

ガドリニウム造影剤を用いた MRI 検査説明書

1. 検査

ガドリニウム造影剤を用いた MRI 検査

2. 検査を行う理由

あなたの病気の診断、治療方針の決定、経過観察などの目的で検査を行います。ガドリニウム造影剤を投与することで、画像にコントラストが付き、あなたの病気についての情報量が増え、診断と治療に役立ちます。

3. 検査の具体的内容

ガドリニウム造影剤という検査薬を使用して MRI 検査を行います。造影剤の投与ができるか採血で腎機能を調べます。検査前に造影剤を血管内に投与するためのルートを経脈に挿入します。

ガドリニウム造影剤投与中や投与後に気分不良や体の異常を感じた場合は申し出てください。また、検査後に気分造影剤が血管外に漏れて注射部位が腫れて痛みを伴うこともあります。通常は2日程度で吸収されますが、診察や処置が必要になることもあります。

4. 検査に伴う危険性の程度

ガドリニウム造影剤は安全な薬ですが、他の薬と同様に副作用が起きることがあります。副作用は、腎臓や肝臓の機能が低下している方、造影剤で副作用が起きたことがある方、喘息などのアレルギー歴を持つ方などが起きやすく、症状も重くなる危険性があります。重篤な副作用が起きた場合は、生命を守るために集中治療が必要になる可能性もあります。

軽い副作用〔頻度：100人につき1～2人（1～2%）〕

痒み・湿疹・じんま疹、 胃の不快感（吐き気・嘔吐）

のどの違和感・咳・くしゃみ、 手足のむくみ、 めまい、 頭痛など

重い副作用〔頻度：4万人につき1人（0.0025%）〕

息切れ、 呼吸困難、 胸痛、 痙攣、 失神、 血圧低下、 腎不全など

※ 次に記載していることに該当する項目がある方は、副作用が起きやすい場合や注意が必要な場合がありますので申し出てください。

腎機能が悪い、透析中である

推定糸球体濾過量（eGFR） $30 <$ ：禁忌

透析中：禁忌

造影剤による副作用が起きたことがある

気管支喘息がある

飲み薬や注射薬の薬物アレルギーがある、アレルギー体質である

重篤な肝臓の病気がある

重篤な心臓の病気がある

- 心臓病や高血圧でβブロッカーという薬を使用している
- 妊娠中、授乳中である

5. 頻度の低い合併症（0.1%未満）や偶発症であっても重篤な有害事象が発生する可能性があるもの

ガドリニウム造影剤によるショックで死亡することも非常にまれにあり、その死亡率は100万～200万人に1人（0.00001～0.00002%）と報告されています。

6. 代替的検査法・手術法・治療法がある場合には、その内容及び利害得失

造影剤投与による危険性が高いと考えられる場合には、造影剤を使用した検査を行わない、別の造影剤を使用する、別の検査法を用いるなどの対応を行います。さらに、検査法について他の医師や病院などに意見を求める（セカンドオピニオン）ことができます。

7. その他

◎ 緊急時の対応について

検査室には、検査担当医、看護師、診療放射線技師が常在しています。また、必要に応じて主治医・担当医が検査に付き添います。予期せぬ事態が発生した場合には、緊急に治療ができる体制が整えられており、必要に応じて救急蘇生チームが最善の対処をします。

◎ 質問の機会について

説明書をよく読み、該当する項目がある場合、不明な点・気になる点があれば主治医・担当医またはスタッフへ申し出てください。同意書を提出した後や検査の当日でも構いません。

◎ 同意書の有効期限、保管について

久留米大学医療センターでは、ガドリニウム造影剤投与に関する同意は検査の度に行っていただきます。控えをお渡ししますので、大切に保管してください。

